

平成 28 年度 一般財団法人救急振興財団 調査研究助成事業

平成 29 年 3 月 6 日

「予防救急の普及啓発に関する研究」報告書

大阪市消防局 救急部救急課

「予防救急の普及啓発に関する研究」報告書

1 研究目的

総務省消防庁の平成 26 年度救急業務のあり方検討会において示されている「予防救急」については、救急需要の抑制の観点からも推進していくべきものとされた。そこで、全国の消防本部（救急隊員）が様々な場所、年齢層に関係なく使用できる、予防救急普及啓発プログラムを作成し、転倒などによるけがの防止や熱中症の予防など、救急搬送に至らないようにけがや病気を未然に防ぐことの方策や心がけについて啓蒙を図ることを目的としアプリケーションを制作する。

2 調査研究の内容と方法

当局では、市民への応急手当の普及啓発とともに「予防救急」についてアニメで学ぶことができる web サイト「ボジョレーに教わる救命ノート」(<http://www.119aed.jp/>)にてこれらの普及啓発を実施しており、平成 29 年 1 月には 1,200 万件のアクセス数を超え、多くの方々に利用されている。（平成 24 年 10 月開設）

この web サイトのマスコット犬（ボジョレー）を主人公とし予防救急を啓発する「デジタルえほん」及び「デジタル紙しばい」を制作し、当該媒体は、インターネット環境が無くても各種広報が可能で、誰にでもわかりやすいものとする。

また、全国の消防本部へパスワードを配付し、ダウンロードすることによりプログラムを持ち出すことができ、インターネット環境のないパソコンやタブレットでも使用できることで広報の幅が広がり、また、指導者の技量にとらわれることなく統一したカリキュラムによる広報が可能となる。

方法（実施内容）

【第 1 期】 6 月～9 月期

➤ プログラムの開発・試作版の制作

「デジタルえほん」及び「デジタル紙しばい」の制作項目（シナリオを含む。）について、主人公となるマスコット犬（ボジョレー）を取り扱う、アプリケーション制作会社と事前調整を実施。また、デジタルえほんの制作を先行し、それを基にデジタル紙しばいを制作することとした。

● 普及啓発項目の選択

救急活動記録から予防救急を普及啓発する上で少しの注意と心がけで防ぐことのできるけがや病気を代表する 6 項目を普及啓発項目として選択した。

<普及啓発項目>

「ころぶ・すべる・おちる」「のどにつめる・まちがえてのむ」「やけど」
「インフルエンザ」「ねっちゅうしょう」「そとでのじこ」

● 「デジタルえほん」「デジタル紙しばい」のコンセプト

デジタルえほん及びデジタル紙しばいそれぞれについて、普及啓発方法などを検討し、対象を整理したうえでコンセプトについて決定した。

<デジタルえほん>

幼児、児童などで主に一人称（保護者等を含む。）を対象としている。

内容としては、幼児等が自ら操作し、考え、学習できるように遊び要素を含めた構成としており、えほんを読み進めることで楽しく予防救急について学べ、全ての項目を学習すれば達成感が得られるような内容とした。

<デジタル紙しばい>

幼児、児童などで主に複数人称（保護者等を含む。）を対象としている。

内容としては、消防職員が予防救急を推進するために使用するもので、統一したカリキュラムであり、自動再生と手動再生、また、ナレーション（音声）の有無を選択できるなど、指導者の技量にとらわれることなく普及啓発できる内容とした。

【第2期】10月～12月期

➤ 試作版の検討

第1期のプログラム開発に係る調整に基づき制作された「デジタルえほん」を基に、対象である幼児等にわかりやすく、操作しやすいよう、また、繰り返し学習できるように表現や動きをアプリケーション制作会社と調整した。

「デジタルえほん」の制作完了に合わせて、アプリケーション制作会社に「デジタル紙しばい」の制作を依頼した。

「デジタルえほん」及び「デジタル紙しばい」について、全6項目の制作が完了し、第3期において試行し改良することとした。

【第3期】1月～3月期

➤ 協力機関での試行

日頃から予防救急の普及啓発にかかわっている消防署及びデジタル絵本等の対象である子どものことをよく知る保育士が勤務する保育所を試行機関として選定した。消防署については、各媒体について使用における操作性及び今後の活用方法などを、また、保育所については、表現方法や内容が子どもに理解できるかなどについて、それぞれの立場からのご意見をいただき、改良を加えた。（資料1及び2）

協力機関	試行期間	試行協力者
大阪市西成消防署	平成 29 年 1 月 19 日 (木) ～平成 29 年 1 月 30 日 (月)	予防担当、地域担当、救急担当 及び警防担当
大阪市立西保育所	平成 29 年 1 月 25 日 (水) ～平成 29 年 2 月 10 日 (金)	保育所長以下、16 名

3 成果

当局において応急手当及び予防救急の普及啓発を実施している web サイト「ボジョレーに教わる救命ノート」(<http://www.119aed.jp/>) により公開し、全国の消防本部においてダウンロード(資料3)することにより、簡単にプログラムをご活用いただけるだけでなく、インターネット環境のないパソコンやタブレットでも持ち出して使用できることで広報の幅が広がり、また、指導者の技量にとらわれることなく統一したカリキュラムによる広報が可能となるほか、これまでも全国の消防本部で推進されている啓発に合わせて全国的に統一した予防救急普及啓発媒体としてご活用いただけ、アプリケーションをダウンロードしたパソコンやタブレットをテレビ、プロジェクター等へ接続しての放映など様々な形態で普及啓発ができる。

制作した「デジタルえほん」(資料4)及び「デジタル紙しばい」(資料5)による予防救急普及啓発のターゲットを幼児及び小児としており、この時期に「予防救急」に関する教育を実施することで、けがや病気を予防することが習慣となり、救急需要の抑制にも効果があると考えられ、また、紙芝居など遊びの中で学ぶことにより記憶に残りやすく、家庭に持ち帰り、家族で予防救急について会話することも想定され、子どもだけではなく、その保護者等に対する啓発効果も期待できる。

*この研究は一般財団法人救急振興財団の「救急に関する調査研究事業助成」を受けて行ったものである。